

第5学年3組 音楽科学習指導案

期 日 平成30年11月22日(木)
場 所 法吉小学校 体育館
指導者 教諭 藤井 範子

1 題材名 いろいろな音階を使って音楽をつくろう

2 題材の目標

醸し出す雰囲気の違いの違う音階を使って、即興的に旋律を重ねて表現したり、音楽を形づくっている要素を生かして音楽をつくったりする活動を通して、見通しをもってまとまりのある音楽をつくる能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

高学年になると、今まで得てきた音楽経験をもとに、学んだことを生かしながら様々な発想をもって音楽表現ができるようになる。また、友だちとかかわり合いながら何かをつくり上げるといった集団としての意識の高まりも見られるようになる。

このような時期に、即興的に表現する中で思いついた考えを音で試しながら音楽づくりの発想を広げたり、音楽の仕組みを生かして音を音楽へと構成したりする活動を通して、つくろうとする音楽について見通しをもって音楽をつくる経験を積み重ねて、音楽をつくる喜びを味わうようにすることが大切であると考え。本題材では、醸し出す雰囲気の違いの違う4つの音階（中国風・沖縄風・アラビア風・日本風）の中から選んだ音階を使って、4つの役割（ドローン・パターン・メロディ・合いの手）で即興的に旋律を重ねて表現したり、音楽を形づくっている要素を生かして、まとまりのある音楽をつくったりする活動に取り組む。この活動は、感性や創造性を働かせて自分にとって価値のあるオリジナルな音楽をつくる喜びを味わうことができると考える。

本校研究主題「自分の思いをもち、仲間とともに、生き生きと表現する子どもの育成」を受け、互いに思いを伝え合い、音楽をつくっていく中で、気づきや発見など児童の心を動かす場面や互いにかかわり合いながら思考する場面を通して「人と一緒につくっていくことは楽しい」、「もっとよい表現にしたい」という思いや達成感を感じることができる学習活動としていきたい。

(2) 児童について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本題材では、醸し出す雰囲気の違いの違う音階を使って、即興的に旋律を重ねて表現したり、音楽を形づくっている要素を生かして音楽をつくったりする活動を通して、見通しをもってまとまりのある音楽をつくる能力を身に付けることをねらいとする。

○本校の研究仮説と本題材のねらいに迫る支援について

① 音楽で身に付ける力を明確にし、そのための手立てを工夫した授業づくり

- ・ 児童が様々な発想をもって音楽をつくるために、わかりやすく適切な条件（児童には「約束」と提示）を設定する。
- ・ 児童の発想や表現から生まれた音楽の面白さを自分の表現に生かすようにするために、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みと結びつけて、表現が高まったことを価値付ける。

- ・ 音楽をつくる過程で、停滞しているグループや一つのアイデアで完成としているグループには、表現の幅を広げたり高めたりするために、アイデアやヒントを示してアドバイスする。
- ・ 音楽をつくる過程で、話し合いだけに終始せず、自分や友だちの思いを実際に音に出して試しながら表現を工夫するよう促す。
- ・ グループの進行状況を確認したり、思いや意図を明確にしながらつくっていったりするために、学習カードを活用する。
- ・ 木琴による即興演奏（「音楽をつくる・音楽を聴く～子どもと音楽をつなぐCD集」より）を用いて、旋律の重なるの面白さを感じ取れるようにする。
- ・ 「かえるのがっしょう」をいろいろな音階で演奏している「It's a piano world（かえるのがっしょう）」（ドイツ民謡 編曲 杉山正明）を用いて、音階の違いによって雰囲気異なる面白さを感じ取れるようにする。

② 互いのよさを認め合う場の設定

- ・ グループの友だちとお互いに思いを伝え合い、表現のよさを認め合いながら音楽をつくっていきけるよう、グループでの活動時間を十分に確保する。
- ・ 全体でアイデアを出し合い、そのよさを認め合いながら各グループが共有していけるような場の設定をする。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A 表現 (3) 音楽づくり アイ

(2) 取り扱う主な音楽を形づくっている要素

速度 旋律 強弱 音の重なり 音階 拍の流れ
 反復 問いと答え 変化 音楽の縦と横の関係

5 教材

児童が作った作品

木琴による即興演奏（「音楽をつくる・音楽を聴く～子どもと音楽をつなぐCD集～」より）

「It's a piano world（かえるのがっしょう）」（ドイツ民謡 編曲 杉山正明）

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の 創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽				
A・音楽づくり	○	○	○	
B・鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
<p>①4つの旋律の重なりに関心を持ち低音（ドローン）などの反復に合わせて即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽づくり：事項ア)</p>	<p>①音階の違いによる旋律の雰囲気を感じ取りながら、旋律を重ねたり音楽の仕組みを生かしたりして、音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (音楽づくり：事項イ)</p>	<p>①既習の打楽器アンサンブルや、木琴による即興演奏で得た発想を生かして、即興的に旋律を重ねて表現している。 (音楽づくり：事項ア)</p>
<p>②いろいろな音階が醸し出す雰囲気の違いに関心を持ち、それぞれの音階を使って即興的に旋律を重ねて表現する学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽づくり：事項ア)</p>	<p>②4つの旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、旋律の重なりや変化を生かして、始め方や終わり方を工夫し、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて見通しをもっている。 (音楽づくり：事項イ)</p>	<p>②音階の雰囲気を感じ取りながら、音楽を形づくっている要素を生かして、グループの音楽をつくっている。 (音楽づくり：事項イ)</p>
<p>③自分の旋律と他の旋律との重なりに関心を持ち、音楽の仕組みを生かして音楽をつくる学習に意欲的に取り組もうとしている。 (音楽づくり：事項イ)</p>	<p>③速度や強弱、音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を特徴付けている要素を生かした表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて意図をもっている。(音楽づくり：事項イ)</p>	

7 指導と評価の計画 (全6時間)

次	時	主な学習活動 (○ ねらい・学習活動)	教材	評価規準と評価の方法
一	1	<p>○4つの役割を意識して、即興的に旋律を重ねて表現することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。 ・打楽器を使った音楽づくりを想起する。 ・木琴の決められた五音を使って簡単なデモンストレーションをする。 ・それぞれ異なった4つの役割で音楽をつくることを知る。 ・本時の活動のめあてと約束を確認する。 <p>約束① 4つの役割で音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★ドローン・・・テンポをキープし低い音を持続する支え役 ★パターン・・・一定のパターンを繰り返す伴奏的な役 ★メロディー・・・主なメロディ役 ★合いの手・・・調子よく音を入れて飾りをつける役</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・木琴による即興演奏(「音楽をつくる・音楽を聴く～子どもと音楽をつなぐCD集～」より)を聴く。 ・全員が交代で即興的に旋律を重ねて表現し、それぞれの役割のよさや面白さを共有する。(役割を表示した木琴を4台準備する) ・学習のふり返りをする。 	<p>木琴による 即興演奏 (「音楽をつくる・音楽を聴く～子どもと音楽をつなぐCD集～」より)</p>	<p>ア① 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p> <p>ウ① 演奏聴取</p>
	2	<p>○音階の違いによって、音楽の雰囲気が変わる面白さを感じ取りながら、即興的に旋律を重ねて表現することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。 ・「かえるのがっしょう」を日本音階と沖縄音階でアレンジした「It's a piano world (かえるのがっしょう)」を聴き、雰囲気の違いを感じ取る。 ・楽譜を提示し、使われている音が違うことに気付き、その音階を知る。 ・アラビア音階、中国音階のアレンジも聴き、使われる音階の違いによって雰囲気が変わる面白さを感じ取る。 ・本時の活動のめあてと約束を確認する。 <p>約束② 4つの音階のどれかを使って音楽をつくる。 (付箋が付いている音だけを使う)</p> <p>約束③ 2音以上を使って旋律をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★中国風・・・#ド・#レ・#ファ・#ソ・#ラ (黒鍵五音) ★沖縄風・・・ド・ミ・ファ・ソ・シ ★アラビア風・・・ミ・ファ・#ソ・ラ・シ ★日本風・・・ラ・シ・ド・ミ・ファ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・席順に4人で役割分担をし、即興的に旋律を重ねて表現する。 ・それぞれの音階の雰囲気の違いの面白さを感じ取り、それを共有する。 ・学習のふり返りをする。(学習カードA) 	<p>「It's a piano world (かえるのがっしょう)」</p>	<p>ア② 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p>

二	3	<p>○グループで4つの旋律の重ね方を試しながら、音楽の仕組みを生かして音楽をつくることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。 ・本時の活動のめあてを確認する。 ・4人グループで選んだ音階で役割を決め、いろいろな重ね方を試しながら、音楽の仕組みを生かして音楽をつくる。 <p>・学習のふり返しをする。(学習カードB)</p>		<p>ア③ 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p> <p>イ① 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p> <p>演奏聴取 学習カードB</p>
	4 (本時)	<p>○旋律の重なりや変化を生かして、始め方や終わり方を工夫し、まとまりのある音楽をつくることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。 ・本時の活動のめあてを確認する。 ・ドローンから順番に重ねて始めているが、終わり方が決まっていない。グループを例にアイデアを出し合う。 ・旋律の重なりや変化を生かして、始め方や終わり方を工夫し、まとまりのある音楽をつくる。 ・アイデアを出し合ったグループの音楽を全員で聴き、工夫のよさを共有する。 <p>・学習のふり返しをする。(学習カードB)</p>	見 童 が つ く	<p>イ② 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p> <p>演奏聴取 学習カードB</p>
	5	<p>○音階の雰囲気を感じ取りながら、速度や強弱などを生かした表現を工夫し、自分たちの思いに合った音楽をつくることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。 ・前時に速度や強弱を取り入れて工夫しているグループを例によさを共有する。 ・本時の活動のめあてを確認する。 ・音階の雰囲気を感じ取りながら、速度や強弱などを生かした表現を工夫し、自分たちの思いに合った音楽をつくる。 <p>・学習のふり返しをする。(学習カードB)</p>	つ た 作 品	<p>イ③ 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p> <p>演奏聴取 学習カードB</p>
	6	<p>○グループでつくった音楽を互いに発表し合い、表現のよさを認め合うことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。 ・本時の活動のめあての確認をする。 ・グループごとにつくった音楽を発表し合う。 ・感じたことを発表し、友だちの表現のよさを伝え合う。 <p>・学習のふり返しをする。(学習カードB)</p>		<p>ウ② 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかかわり)</p> <p>演奏聴取 学習カードB</p>

8 本時の学習（本時4／6）

(1) ねらい

- ・旋律の重なりや変化を生かして、始め方や終わり方を工夫し、まとまりのある音楽をつくることができるようにする。

(2) 展開

学習活動（・予想される児童の反応）	教師の支援	評価規準と評価の方法
<p>1 常時活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木琴を使った旋律遊び <p>2 活動のめあてを確認する。</p>		
<p>始め方と終わり方を工夫してまとまりのある音楽をつくろう</p>		
<p>♡3 1つのグループを例に、どのような工夫ができるかアイデアを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番にぬけていったらどうか ・一斉に始めて一斉に終わったらかっこいい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まとまりのある」とはどういうことかを投げかけ、「始まりと終わりのある音楽」という児童の思いを学習課題とする。 ・前時の見取りから、ドローンから順に重ねて始めているが、終わり方は決まってないグループを取り出し、終わり方の工夫のアイデアを出し合い、試しながら共有するようにする。 	
<p>☆4 グループで音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度や強弱など音楽を特徴付けている要素を生かして始め方や終わり方を工夫している ・選んだ音階の雰囲気から思いついた始め方や終わり方を工夫している ・始め方や終わり方を工夫している(ずらして・一斉に・ユニゾンなど) ・始め方だけが決まり、終わり方について考えがまとまらない ・最初に思いついた始め方と終わり方で完成としてしまっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いだけに終始せず、音を出して試しながら工夫するよう促す。 ・児童の発想を大切に、様々な表現を認めて価値付けていく。 ・すでに速度や強弱などの工夫を取り入れたり、選んだ音階の雰囲気から思いついたりして音楽をつくろうとしているグループには、「どうしてそうしたのか」を問いかけ、意図を確認して更に表現を高めていくよう促す。 ・停滞しているグループや一つのアイデアで完成としているグループには、アイデアやヒントを示してアドバイスし、表現を高めるようにする。 	<p>イ② 行動観察 (表情や発言内容・友だちとのかわり) 演奏聴取</p>

<p>・どのようにしたらよいかわからず活動が進まない</p> <p>5 アイディアを出し合ったグループの音楽を全員で聴き，工夫のよさを共有する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り，次時の学習の確認をする。</p>	<p>・どのようにしたらよいかわからない児童には，グループの友だちの考えを実際に試す中で選び，それを自分の思いとしてよいことを伝える。</p> <p>・授業の最初に紹介したグループの終わり方の工夫を聴くことで，工夫のよさを全体で共有するようにする。</p> <p>・学習カードの内容や振り返りの発表から，教師が工夫のよさや面白さを価値付けして伝え，次時の活動に向けての意欲につなげる。</p>	<p>学習カードB</p>
---	--	---------------

(3) 予想される児童の具体的な姿

評価の観点【音楽表現の創意工夫】イ②

<p>十分満足できると判断される児童の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速度や強弱など音楽を特徴付けている要素を生かしたら，より面白い音楽になるという見通しをもっている。 ・始め方と終わり方を決めながら，それに合った中の部分の旋律の重ね方も工夫し直したら，音楽がまとまるという見通しをもっている。 ・選んだ音階の雰囲気から思いついた始め方や終わり方を決めたら，まとまりのある音楽になるという見通しをもっている。
<p>おおむね満足できると判断される児童の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始め方や終わり方の工夫をすること（ずらして，一齐に，ユニゾンなど）で，まとまりのある音楽になるという見通しをもっている。 ・自分と友だちの旋律の重なりをいろいろ試しながら，面白いと思う始め方や終わり方を工夫したら，まとまりのある音楽になるという見通しをもっている。
<p>支援を要すると判断される児童の姿の具体例と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように工夫したらまとまりのある音楽になるのか見通しがもてない。 → グループの友達の考えを実際に試す中で選び，それを自分の思いとしてよいことを伝える。

(4) 授業研究の視点

児童が旋律の重なりや変化を生かして，まとまりのある音楽をつくっていくために以下の手立ては有効であったか。

- ・各グループに対する教師の適切な評価言
 - 児童の発想や表現のよさを，音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みと結びつけて表現が高まったことを価値付ける。
 - 停滞しているグループや一つのアイディアで完成としているグループには，表現の幅を広げたり高めたりするためのアイディアやヒントを示してアドバイスする。
- ・グループの進行状況を確認したり，思いや意図を明確にしながらかつていったりするための学習カード
- ・1グループを抽出して全体でアイディアを出し合い，そのよさを認め合いながら各グループが共有していけるような場の設定。